

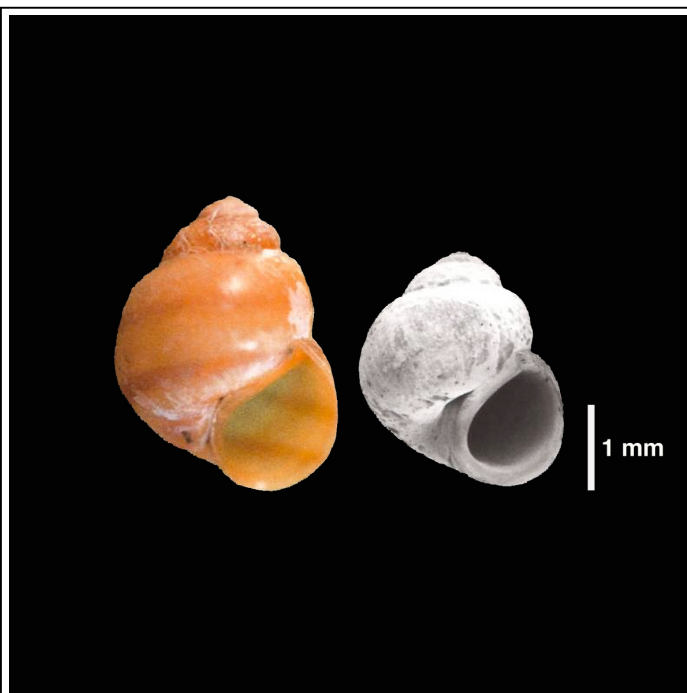
ツブカワザンショウ *Assiminea estuarina* Habe

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺に分布する。本種はヨシ原内より下部の砂利や転石があるところに多い。県内ではヨシ原湿地やその周辺が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999)。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長約 4 mm の小型種。カワザンショウガイ科は小型種が多く、形態的にも近似していて同定は難しい。本種はカワザンショウガイ *Assiminea japonica* Martens の小型個体や幼貝と近似するが、殻質が厚く螺塔は低く卵形から球形、非常に狭いが臍孔が開く個体が多い。



宝飯郡佐奈川河口, 1998年3月11日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて、約 10 カ所生息地がある。生息地では群生することが多いが、その範囲は狭い。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。宮城県志津川湾～九州、奄美大島、沖縄島に分布する(福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなヨシ原湿地周辺の砂利や転石上に生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地やその周辺が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地と周辺部を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【引用文献】

福田 宏, 2012. ツブカワザンショウ, p. 48. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.

(木村昭一)